

MAEBASHI TIMES

vol.0

(めぶく号)

いま、
前橋が
おもしろい。





プロローグ

めぶく前橋モデル

前橋市は、東京駅から約1.5時間。群馬県の中南部に位置する人口約34万人の都市です。古くは県全体の絹産業の輸出拠点として繁栄した街でしたが、残念ながら現在は県庁所在地であるという特徴以外に有名観光スポットも存在しない、認知度の低い典型的な地方都市となっています。

本誌の主役である中心市街地“まちなか”は、本来都市の顔となるべき存在ですが過去の賑わいはどこへやら...現状はシャッター街化が進み続けるエリアです。

そんな現状を打破するべく前橋市は、100年先を見据えた都市の指針である前橋ビジョン「めぶく。」を、行政と民間が一体となり都市魅力アップ共創(民間協働)推進事業として2016年8月に制定しました。

たかがビジョンされどビジョン。このビジョン完成を契機として、街の発展に想いを寄せる市民活動や、前橋に地縁をもつ企業団体による積極的な支援活動といった民間の動きが活性化し始めました。その流れを汲み、商工会議所も地元経済界の意向をまとめながら民間主体による継続的な街づくり＝都市の魅力を増していく戦略として「Green&Relax構想」を発表しました。

これらの流れを受けながら、“まちなか”には全国に数多ある地方活性化施策の中

でも積極的かつ特殊ともいえる民間主導の「前橋モデル」とも言える活動が、続々と芽吹き始めたのです。

本誌は、今まさに前橋で起きているプロジェクトの紹介に加え、ビジョンの求心力&影響力により世界各地からプロジェクトに参加してくれた著名デザイナーやクリエイター、企業家たちの活動はもちろんのこと、その土地に生きるものとして、自らの戦いを始めた市民たちの活動を紹介していくことで、同じように苦しむ都市や街に小さな希望の明かりを灯したいと願っています。

「なにもない」「変わることはない」が口癖だった地方都市で起きる新しい試みを多くの方に知ってもらい、都市の変革期を共有することで、多くの方と共に課題を考え、価値創出・課題解決の一つのアイデアとして前橋の変化を楽しんで貰えたら幸いです。共に日本の地方を考え、楽しむ仲間が一人でも増えてくれたら。そして一人でも多くの方に前橋モデルの顔ともいふべき「中心市街地・まちなか」へ足を運んでいただけたら...そんな想いを込めて本誌を上梓させていただきます。

芽吹きが始まったばかりの「前橋モデル」を紹介いたします。ぜひ、ご一読いただければ幸いです。

一般社団法人 前橋デザインコミッション

データで読む、前橋。

ライフコストが安い、自然災害が少ない、温泉と山が近い、インフラが整ってる。意外といいぞ、前橋市。

物価が安い

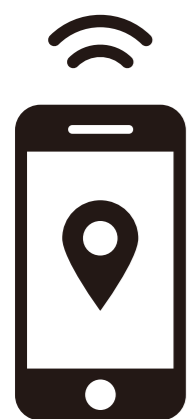


令和元年 総務省統計局小売物価統計調査(構造)/総務省より

良い地盤が多い



47都道府県「いい地盤ランキング」2016/地盤ネット総合研究所

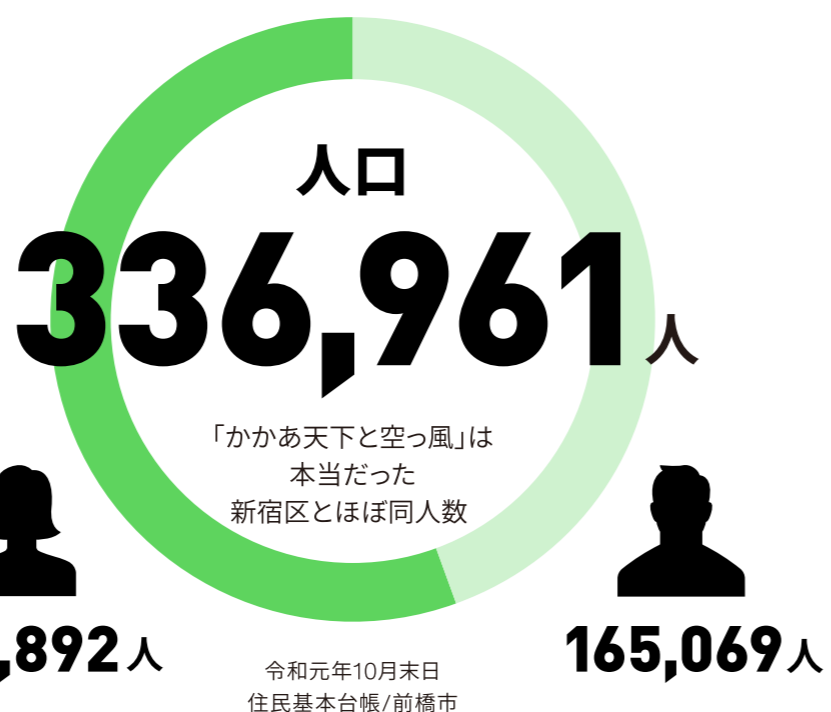


(マース: 次世代移動サービス)

MaaSへの先駆的な取り組み

スマートモビリティチャレンジ対象地域

将来構想としては、自動運転バスとオンデマンド型交通のサービスを導入して、市内公共交通の一括ルート検索・予約・決済が可能になる。



ゆったりと暮らせる

可住地面積1kmあたり

前橋の人口密度

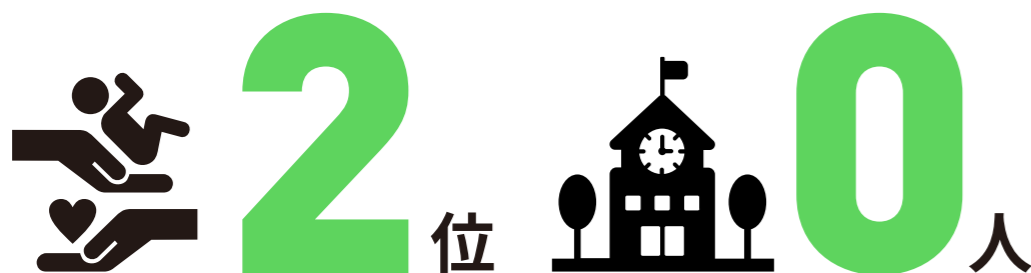


東京 **9,604** 人

子育て世代に優しい

子育てしながら働ける環境がある都市

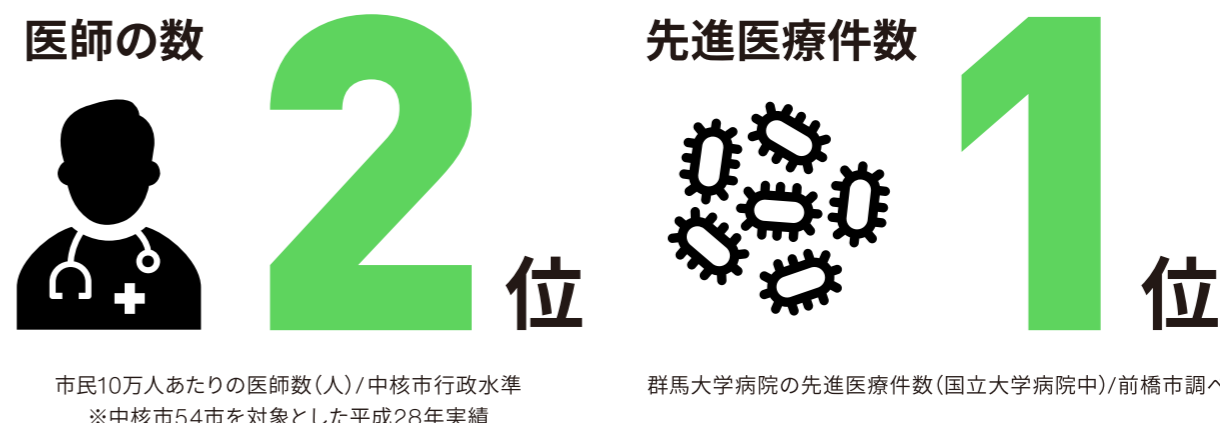
待機児童



成長可能性都市ランキング2017/野村総合研究所

令和元年 厚生労働省保育所等関連状況取りまとめ/厚生労働省

医療が充実



自然が豊か

森林面積



面積311.59km²の実に1/5が森林面積!



自動運転先進地域

営業ナンバーで自動運転バスの実証実験は全国初!

高等教育が充実



大学は、群馬大学、前橋工科大学、群馬県立県民健康科学大学、群馬医療福祉大学・短期大学部、共愛学園前橋国際大学、明和学園短期大学の6校。高等専門学校は群馬工業高等専門学校の1校。専修学校は30校。また、産学官で地域人材の育成・定着に取り組む「めぶくプラットフォーム」がスタート。

公園が多い

平成28年版前橋市統計書/前橋市

公園の数



高崎:218箇所



観光地が近い

前橋市中心市街地から車での移動時間

- 赤城山 **30** 分
- 草津温泉 **1.5** 時間
- 伊香保温泉 **25** 分
- 四万温泉 **60** 分
- 富岡製糸場 **35** 分
- 軽井沢 **55** 分
- 東京 **1.5** 時間



日本で一番安い遊園地。最古の電気木馬は10円也。るなばあく

前橋のこれからを おもしろくする多彩な面々。

前橋モデルはまだ始まったばかり。

目に見える成果が出るには、しばらく時間がかかるでしょう。

でも、大都市ではない前橋だからこそ、挑戦のインパクトは大きいはず。

前橋モデルに共感して参加してくれたすごい人たちを紹介します。

ヨーロッパ各国で最優秀賞を受賞する国際的な建築家が、自身国内初のホテルプロジェクト SHIROIYA HOTELの設計を担当。



藤本 社介
建築家

1971年北海道生まれ。1994年東京大学工学部建築学科卒業。2000年藤本社介建築設計事務所設立。

ヴィトラ、FLOS、無印良品、マルニなど世界中で活躍するプロダクトデザイナーが SHIROIYA HOTELの部屋をデザイン。



Jasper Morrison (ジャスパー・モリソン)
プロダクト・デザイナー

1959年イギリス・ロンドン生まれ。1985年ロンドン王立芸術学院(RCA)卒業、1986年デザインオフィス「Office for Design」設立。

家具、住宅、オフィス、文化施設等の建築まで手掛けるイタリアの巨匠建築家が SHIROIYA HOTELの部屋をデザイン。



Michele de Lucchi (ミケーレ・デルルッキ)
建築家

1951年イタリア、フェラーラ生まれ。1976年フィレンツェ大学建築学科卒業、1981年Memphis結成。1990年「Produzione PRIVATA」設立。

JCDデザインアワード金賞など受賞多数。街区の角となり、商店街のファサードの一部となるハンドクラフトパスタ店 GRASSAを設計。



中村 竜治
建築家

1972年長野県生まれ。1999年東京藝術大学美術研究課建築専攻修士課程修了。2000～03年青木淳建築計画事務所を経て2005年中村竜治建築設計事務所設立。2013～17年武蔵野美術大学、東北大学非常勤講師など歴任。

Blue Bottle Coffee、Aesopなどで知られる建築家。商店街を立体化させることで賑わいを蘇らせる和む菓子店などが又を設計。



長坂 常
建築家

1971年大阪府生まれ。1998年東京芸術大学美術学部建築科卒業。1998年スキーマ建築計画設立。2007年コラボレーションオフィス「HAPPA」設立。

プラダ青山店を手がけたスイスの設計事務所 Herzog & de Meuron出身の建築家が新しいスタイルのとんかつ前橋カツカミを設計。



高濱 史子
建築家

1979年兵庫県生まれ。2007年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了。2012年+ft+/高濱史子建築設計事務所設立。工学院大学非常勤講師、京造形芸術大学非常勤講師など。

ルイ・ヴィトン京都大丸店などで知られ2020年のドバイ国際博覧会で日本館の設計を手掛ける建築家が商店街の店舗設計を計画。



永山 祐子
建築家

1975年東京生まれ。1998年昭和女子大学生生活科学部生活環境学科卒業。1998～2002年青木淳建築計画事務所を経て、2002年永山祐子建築設計設立。

第12回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展で金獅子賞を受賞し、カルティエ現代美術館財団にて個展を成功させた建築家が馬場川遊歩道を計画。



石上 純也
建築家

1974年神奈川県生まれ。東京芸術大学大学院美術研究科建築専攻修士課程修了。2004年石上純也建築設計事務所設立。10年東北大学大学院特任准教授、14年ハーバード大学デザイン大学院客員教員。

「自然と建築が近づけないか」と問い続ける第13回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展で金獅子賞を受賞の建築家が、遊休地再開発を計画。



平田 晃久
建築家

1971年大阪府生まれ。京都大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。2005年(株)平田晃久建築設計事務所設立。10～14年東北大学大学院特任准教授(Futureラボ担当)。現在京都大学教授。

フォルクスワーゲンやアウトディのブランディングを手掛けるドイツのブランドコンサルティング会社が前橋ビジョン策定プロジェクトに参画。



Simon Betsch (サイモン・ベッチ)
ブランド・コンサルタント

1979年ドイツ生まれ。コーブルク大学卒業。2005年ブランドエージェンシーKMS TEAM入社。現在マネージングパートナーとして、世界中のクライアントのブランド戦略、マネジメント、開発を担当。

空間をメディアとしてとらえたアクチュアルコミュニケーションデザインの専門家がまちなか遊休地再開発を牽引。



谷川 じゅんじ
スペースコンポーザー

1965年千葉県生まれ。2002年空間クリエイティブカンパニーJTO設立。16年KENPOKU ART 2016茨城県北芸術祭クリエイティブディレクター。

61万人を超える入場者数を記録した展覧会も好評だったアーティスト。「スイミング・プール」に続く国内2番目の作品を前橋に恒久設置。



Leandro Erlich (レアンドロ・エルリッヒ)
アーティスト

1973年アルゼンチン・ブエノスアイレス生まれ。主な作品は2012年トンネル(越後妻有里山現代美術館キナール)、2003年スイミング・プール(金沢21世紀美術館)など。

世界に影響を与える若手アーティストの一人として世界経済フォーラムやTEDにも登壇。まちなかの商店街のアートプロジェクトに参画。



スツツニ子!
アーティスト

1985年東京生まれ。2010年英国王立芸術学院修士課程修了。13年MITメディアラボ助教を経て、17年東京大学特任准教授就任、19年東京藝術大学美術学部デザイン科准教授。

ミシュラン二つ星を持ち、アジアで最も注目されるトップシェフの一人が前橋プロジェクトに参画。



川手 寛康
シェフ

1978年東京生まれ。各店で修業を積み、2009年フロリレージュ開店。19年『Asia's 50 Best Restaurants』5位、『ミシュランガイド 東京 2020』二つ星を獲得。

「世界の朝食」で知られるbillsのプロデュースを経て、GARDEN HOUSE、MUSTARD HOTELなど人気スポットを次々と生み出す仕掛け人が前橋上陸。



関口 正人
フードビジネスプロデューサー

1972年東京生まれ。2000年都市デザインシステム入社。08年THINK GREEN PRODUCE設立。15年「ログロード代官山」基本計画、企画。16年商業施設「MARINE&WALK」プロデュース。

グループウェアのバイオニアで、働き方をデザインし続けるサイボウズ社長も前橋のGreen&Relax構想に着目。



青野 慶久
企業家

1971年愛媛県生まれ。大阪大学工学部情報システム工学科卒業。94年松下電工株式会社入社。97年サイボウズ株式会社設立。05年代表取締役社長に就任。18年代表取締役社長兼チームワーク総研所長(現任)。

ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」の運営など地域経済を元気にすることで日本経済の再興を促す企業家も大注目。



福留 大士
企業家

1976年鹿児島県生まれ。アンダーセンコンサルティング(現アクセンチュア(株))などを経て、2002年福留経営研究所設立。03年(株)チェンジ設立。15年同社代表取締役兼執行役員社長(現任)。

「人がよりよく生きるとは何か(Well-being)」をテーマとして学際的研究を行う医学博士が前橋をWell-being都市へと導く。



石川 善樹
予防医学博士

1981年広島県生まれ。東京大学医学部健康科学科卒業。ハーバード大学公衆衛生大学院修了。(株)キャンサーキャン取締役、(有)日本ヘルスサイエンスセンター取締役、健康学習学会会長。

前橋ローカルアートの水先案内人。名作や巨匠だけでなく身近な存在や感覚に眼を向ける表現活動をテーマに掲げる。



住友 文彦
アーツ前橋 館長

1971年東京生まれ。金沢21世紀美術館建設事務局、東京都歴史文化財団、東京都現代美術館などの学芸員を経て、2013年アーツ前橋館長就任。16年東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科准教授。

HAMACHO HOTEL、扇屋家電など数多くのグリーンプロデュースを手掛けるガーデナーが太陽の鐘をはじめ、前橋の至るところを森化中。



齊藤 太一
グリーンプロデューサー

1978年岩手県生まれ。2011年SOLSO architectural plant farm設立。13年SOLSO FARM運営。15年SOLSO HOME運営。18年『ATELIER DAISHIZEN』設立。18年SOLSO PARK運営。

スティーブ・ジョブズと一緒に仕事をした元アップル本社副社長が、前橋のデジタル産業誘致に尽力。



福田 尚久
企業家

1962年群馬県生まれ。93年アップルコンピュータ(株)入社。2001年同社本社(米国)副社長就任。15年日本通信(株)代表取締役社長就任(現任)。18年myFinTech(株)代表取締役社長就任(現任)。

最先端のアーバンデザイン はじまっています。



アーバンデザイン策定エリア158haのビジョンイメージ図

いま前橋では、デザイン思考を織り込んだ街づくりにチャレンジしようとしている。新しい街づくりのビジョンとして前橋市が「前橋市アーバンデザイン」を2019年9月に策定したのだ。

このビジョンはその名の通り、都市的(Urban)なエリアであるまちなかについて、その使い方の最適化、実用面など考慮した造形意匠(Design)のあり方を示したものだ。まちなかの将来像についてイメージパースをふんだんに散りばめながら、建築物のようなハードだけでなく、ライフスタイルといったソフト面も含めて「見える化」をして、街づくりの方向性が示されている。

このビジョンを策定した背景には、どこの地方都市でもそうであるように、人口減少社会や厳しさを増す地方行政等の状況下において、行政主体の街づくりには限界が見え始めていることがある。その一方で、官民連携によって、これまで使われて

こなかった施設や枠組み、考え方によって街に賑わいを取り戻した事例が数多く出てくるようになった。前橋の街づくりについても、官民連携の様々な取り組みが始まり、街づくりの主体が行政から民間へと移行する転換期を迎えている。

そこで、民間主体の街づくりを推進するうえで、様々なステークホルダーの共通認識としての羅針盤となる理念が必要であることから、官民協働で「前橋市アーバンデザイン」を策定したのだ。

ところで、前橋はどのような都市として発展してきたのか。日本の都市の多くは城下町が起源であるように、前橋も例外ではない。街の西側に利根川が流れ、そのほとりに前橋城が築かれ、城下町が広がった。城下町の経済を支えたのは絹の取引や生糸の生産であった。明治に入ると前橋で生産される生糸は付加価値のあるものとして海外でも評判となり、地域に富が蓄積され、

県庁所在地になったことも相まって街が大きく発展した。

戦後、その蓄積を背景に高度経済成長期の価値観のもと、街はさらに発展するものの、時代変化により、まちなかの空洞化が目立つようになった。まちなかへの投資が低調であることは長い目で見れば、新たな経済活動が生まれる原動力を失っていると言えよう。それに対し、まちなかにおいて、新しい価値を生み出す仕組みが求められるのではないだろうか。そういった現状課題を踏まえ、先に述べた通り、行政だけでなく、民間主体の街づくりが求められるなかで、皆で共有できる街づくりの理念が必要であることからこのビジョンを策定したのである。

策定にあたっては、米国オレゴン州ポートランドの街づくりでその計画の中心的役割を担った全米No.1※の設計事務所ZGF Architectsも関わっており、全米で最も住

民間主導の「前橋モデル」ともいえる動きが続々と芽吹き始めた今。その舞台であるまちなかのかたちについて、最先端なアイデアを取り入れながら官民協働で策定したビジョン、「前橋市アーバンデザイン」。そのエッセンスを紹介します。



1. 中央前橋駅前の将来像 2. 前橋駅北口の将来像 3. 広瀬川河畔の将来像 4. 県庁前けやき並木通りの将来像

みたい街といわれるポートランドの街づくりの理念が大きく役立てられている。そして策定のプロセスでは、将来的に民間主体の街づくりにつながることを意識し、事業者や市民、学生によるワークショップを幾度となく開催し、幅広い意見を集約しながら、目指すべき街の姿について共有が行われた。

ワークショップにおいては、ポートランドの街づくりを学び、様々な民間の参加者が前橋の現状と未来を議論して掲げられた街づくりの方向性は3つある。

一つ目は、都市の便利さと自然と暮らす居心地の良さを兼ね備えた街づくりを示す「エコ・ディストリクト」。前橋市のほど良い都市規模や環境の良い部分を活かし、賑わいやすさといった街の経済的な側面(エコノミー)だけでなく、居心地や快適さ、健康感といった街の環境的な側面(エコロジー)を両立させようとするもの。

街の中に緑や水辺といった自然環境を感じられる居心地の良いオープンスペースを増やし、ICTの活用などによる便利で豊かな生活を送ることが出来る街づくりを目指すものだ。

二つ目は、複数用途の混在した街づくりを示す「ミクストユース」。昼夜を問わずに街に人が行き交い、歩いて暮らせる魅力的な生活を目指そうとするもの。住宅街やオフィス街といった単独用途の街ではなく、「住む」「働く」「商う」「学ぶ」などの用途が混在することにより徒歩圏にて完結した生活が送れるようになり、一日を通して活気のある「住みたい街」にすることを主眼としている。

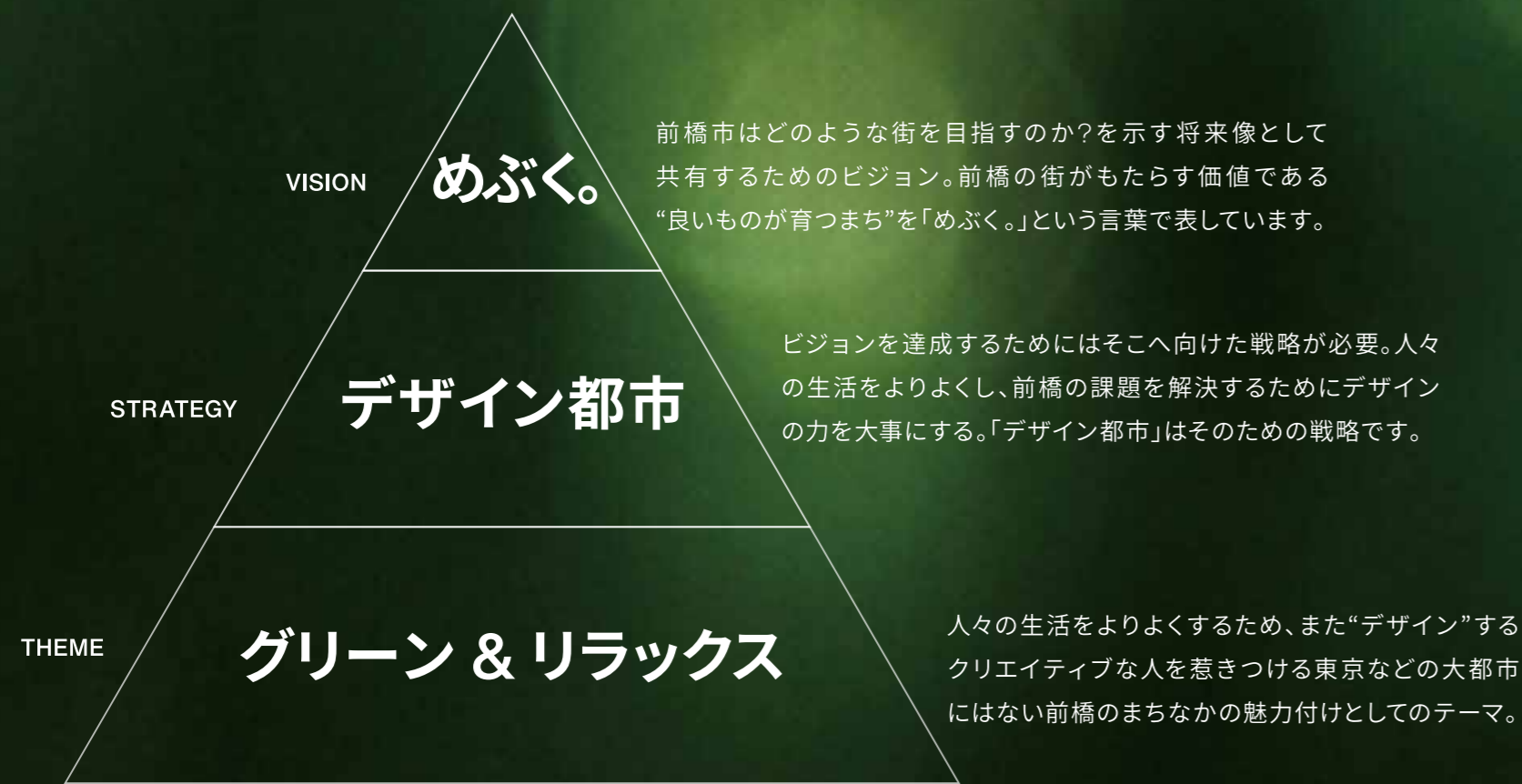
三つ目は、地域固有の資源を最大限活用した街づくりを示す「ローカルファースト」。前橋市が持つ地域固有のあらゆる資源を磨き育て、率先して活用する「前橋らしさ」が感じられる街づくりを目指すもの。前橋市の発展の礎となった絹産業の歴史的な背

景や、それに関連するレンガ倉庫、まちなかを流れる広瀬川や駅前から続くけやき並木などの自然や景観的な資源を認識し、積極的に活用して持続的な地域独自の魅力を作り出していくことを目指す。

この3つの方向性に基づき、これからの前橋の街づくりが進められることで、前橋プライドの礎をより強固にすると同時に便利で健康的なライフスタイルを促進する。緑豊かな屋外空間や建物を含めたまちなか空間が活発に使われて、街の至る所で繰り広げられる様々なアクティビティによって、人々の出会いと交流を生み、クリエイティブな人材が集積・活躍する、多様なライフスタイルを受け入れる街へと発展してゆく。このように、「前橋市アーバンデザイン」策定により、市民や企業、行政のそれぞれが「自分ごと」として地域の課題を捉え、自主的、または連携して課題解決に取り組み、まちなかの活性化を図ろうとしているのが、いまの前橋なのである。

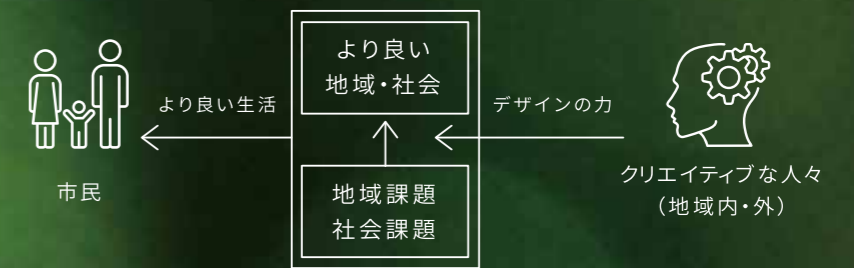
もうひとつの提案 Green & Relax.

前橋ビジョン「めぶく。」を踏まえて
「前橋市アーバンデザイン」と並んで進められた「Green & Relax 構想」。
地元経済界の意を汲みながら商工会議所がまとめた街の方向性の提案。
デザインの力を活かした街づくりで、森の中の街を目指します。



なぜ“デザイン”か。

これからの都市は、デザインの力で新しい価値を生み出していく必要があります。“デザイン”とは、地域・社会の課題を解決し、よりよい地域・社会をつくること。それによって前橋に暮らす人々は、よりよい生活を手にすることができます。デザインする力を持つ、地域内外のクリエイティブな人を惹きつけ、前橋をよりよい社会に変えていくことが「デザイン都市」です。



知的産業のオフィス機能が 郊外へ拡散?

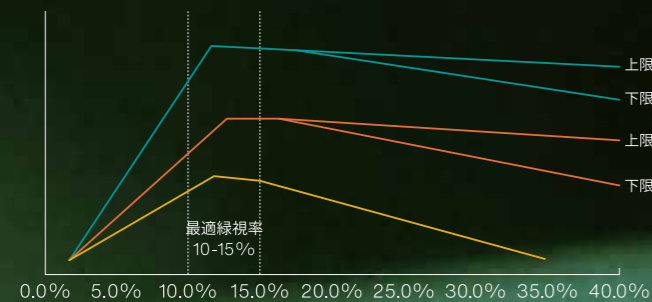
GoogleやMicrosoft、Appleなどのクリエイティブな先端企業が森のような環境にオフィスを置いたり、そのような緑豊かでリラックスできるライフスタイルを求める流れは世界的にも進んでいます。近年の日本の研究[※]によると、東京都市圏でも知識産業企業のオフィスが都心から郊外へ拡散する傾向がみられています。この状況をチャンスと捉え、前橋のまちなかにそれを受け入れる環境をつくる必要があります。

※参考:「東京大都市圏における知識産業事業所の広域的移転流動パターンとその発生メカニズムに関する研究」/山村崇、後藤春彦

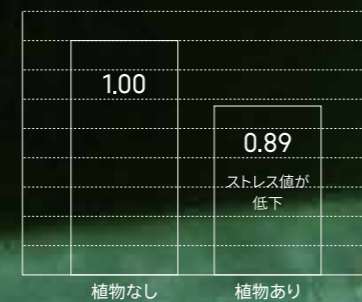
なぜ“グリーン”か。

近年の研究により、自然・緑がストレスを低減させるだけでなく、知的生産性を向上させるなど仕事の生産性を上げることも解明され始めています。「森の中のまちをつくる」というアイデアが実現されれば、都市の恩恵に預かりながら、緑の力で豊かな生活ができる、世界でもユニークな都市をつくれるかもしれません。

緑視率グラフ



植物あり、なしのストレス軽減効果



植物の設置が無いオフィスの、在籍者全体のストレス平均値を「1」とした場合に、同じオフィスに植物を設置した時のストレス平均値の変化を比較。

実験期間:2016年10月~2017年3月
実験場所:日本テレネット ⅡA 個室

群馬県の県都であり「水と緑と詩のまち」である前橋には都市が提供する“刺激”と、自然が提供する“リラックス”を、バランスよく両立できる可能性があります。東京との近さを活かしつつ、良質なデザインを地元で蓄積しながら、東京にはないリラックスできる緑の創出により注力して人を惹きつけていきたいと考えているのです。



人とつながる 街とつながる 居場所の計画。

まちなか遊休地再開発計画

設計 **平田晃久** × ディレクション **谷川じゅんじ**

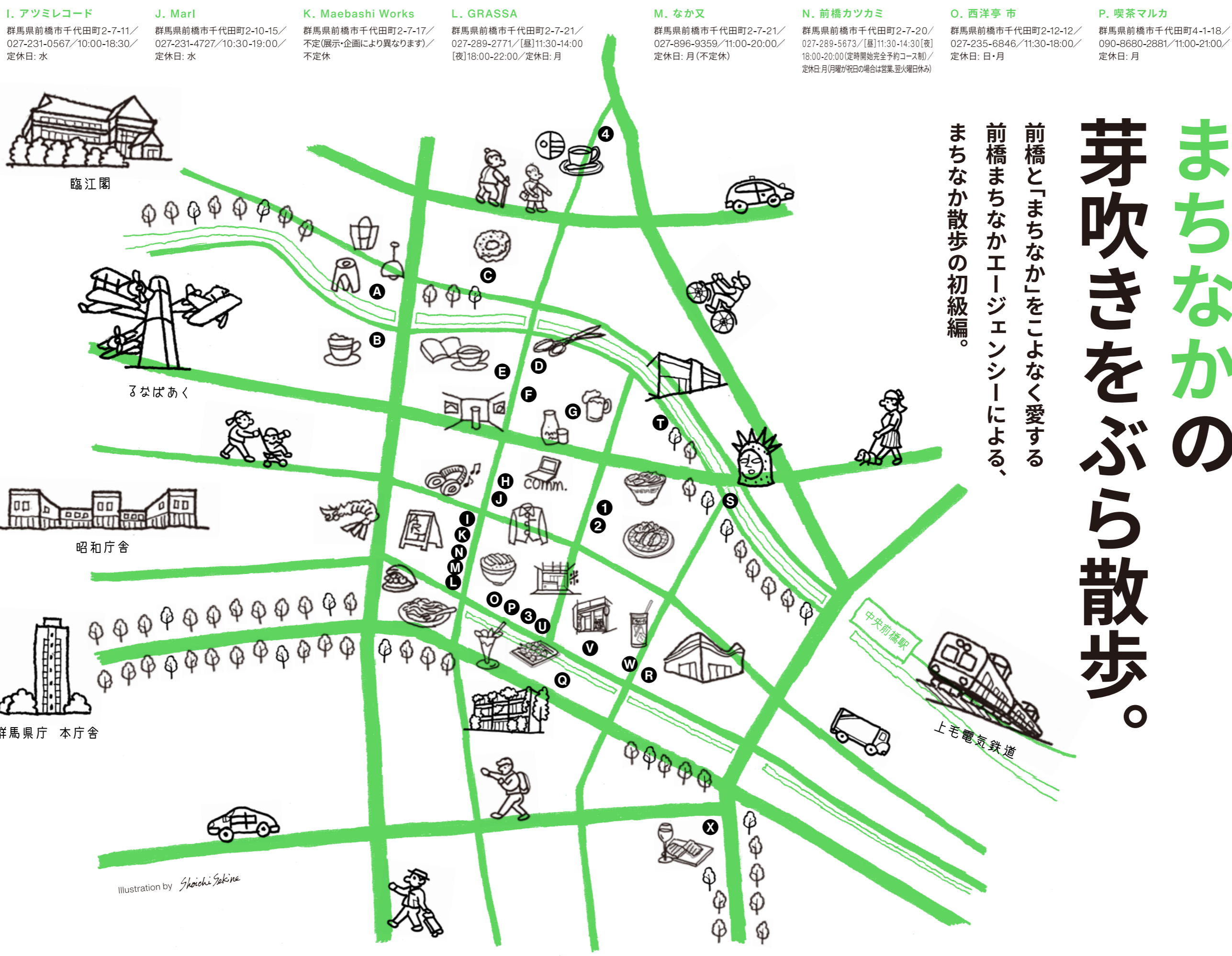
1階は地域コミュニティのつながりを活性化させるにぎわいの場、2階3階は全戸テラス付きのコラボティブハウスとなる、「住む人・働く人・訪れる人」を繋げる地域コミュニティ機能を持った場となる。

計画地は民間主導の前橋まちなか再生プロジェクトの途中で、中心市街地衰退の象徴ともいえる、大きな平置き駐車場。いまこのからっぽの土地が、市民の手で生まれ変わろうとしている。近年この界限には、中心市街地本来の力を活かして楽しい事を企む前橋ラバーズが集まって来ている。その流れを加速させ、誰もが自由に集い人と街が繋がり合う場所をここに作りたい。その想いに共感した多数の前橋経済人達が立ち上がり、全く新しい形の複合施設をまちなかにつくろうと、このプロジェクトが動き出している。



前橋市の中心街＝“まちなか”は、多様な個性を持つプレイヤーが自然と集まり、ここ10年で独自の変化を遂げているエリア。そんな街を代表するお店を巡るぶら散歩のスタートは、広瀬川のほとりにあるセレクトショップ「**ワンダーフォーゲル**」から。前橋にプレイヤーが集まり始めた時期に開店したいわばスタートアップ的ショップ。ハイセンスな家具や雑貨を手に取りながら、広瀬川の流れを望むことができる。お次は、川向こうの歯科医院の隣にある小さなガレット屋「**カフェル ココン**」。東京、フランスと旅をしながらガレットを学んだ店主のお店で、ホッと一息。広瀬川を下っていくと、今度は豆腐ドーナツのお店「**モンスーンドーナツ**」が。店舗を持つ前は、赤い自転車に沢山のドーナツを載せてせせせと売り歩いてたという、存在ごとチャーミングなショップだ。少し歩くと出現するのは昭和レトロな雰囲気満点の弁天通り商店街。ヘアサロンとカフェのお店「**ヴァロ キオスキ**」。ヒッピーカルチャーを感じさせる夫婦が営む空間は、髪を切り、お酒を飲み、心も体もリフレッシュができる。向かいにはブックバー「**月に開く**」。店主は新宿ゴールデン街でも異彩を放つプチ文壇パー「月に吠える」も経営する変わり種。萩原朔太郎好きが高じ、クラウドファンディングにより朔太郎の街である前橋出店をかなえた。その先のアーティストによる個人ギャラリー「**ya-gins**」は、毎月店主のキュレーションにより展示が入れ替わるこだわりのギャラリー。商店街の脇道に入ると、映画のセットのような小さなアーケード「**呑竜飲食店街**」がお出迎え。6坪程度の小さな飲み屋が何軒も連なった不思議な空間だ。プチゴールデン街的な飲み方が楽しめる。商店街を抜けるとそこは中央通り商店街。大きなイベント広場の前にあるのはシェアオフィス「**comm**」。働く、学ぶ、遊ぶ、を一つの空きビルに詰め込んだコミュニティスペース。ここに来た人は、必ず誰かと繋がっていくという。付近には、演歌専門のレコードショップ「**アツミレコード**」、30年以上コムデギャルソンを扱っている隠れたカリスマショップ「**Marl**」、アーティストインレジデンス「**Maebashi Works**」が。ここでは不定期にアーティストによるイベントや展示が行われ、商店街を舞台に様々なパフォーマンスを行っている。アートを楽しみながら歩を進めると、煉瓦の建築が3軒並んでいるエリアに。

- A. ワンダーフォーゲル**
群馬県前橋市住吉町1-3-13 / 027-288-0311 / 10:00-19:00 (13:00-14:00 休憩) / 定休日: 火・日
- B. カフェル ココン**
群馬県前橋市千代田町3-2-12 / 027-888-6138 / [火・金・土] 11:00-19:00 [日] 11:00-16:00 / 定休日: 月 (不定休)
- C. モンスーンドーナツ**
群馬県前橋市住吉町2-1-18 / 027-226-5241 / 12:00-18:00 / 定休日: 日・月
- D. ヴァロ キオスキ**
群馬県前橋市千代田町3-9-4 / 027-237-1790 / [カフェ] 18:00-24:00 [美容室] 完全予約制 (予約時間に応じてオープン) / 不定休
- E. 月に開く**
群馬県前橋市千代田町3-3-22 / 070-1483-4472 / [木・金] 15:00-22:00 [土・日] 12:00-22:00 / 定休日: 月・火・水
- F. ya-gins**
群馬県前橋市千代田町3-9-2 / 不定 (展示・企画により異なります) / 不定休
- G. 呑竜飲食店街**
群馬県前橋市千代田町3-9-12 / 各店舗により異なります / 定休日: 各店舗により異なります
- H. comm**
群馬県前橋市千代田町2-10-2 / 027-212-2117 / 9:00-18:00 / 定休日: 土・日
- I. アツミレコード**
群馬県前橋市千代田町2-7-11 / 027-231-0567 / 10:00-18:30 / 定休日: 水
- J. Marl**
群馬県前橋市千代田町2-10-15 / 027-231-4727 / 10:30-19:00 / 定休日: 水
- K. Maebashi Works**
群馬県前橋市千代田町2-7-17 / 不定 (展示・企画により異なります) / 不定休
- L. GRASSA**
群馬県前橋市千代田町2-7-21 / 027-896-9359 / 11:00-20:00 [夜] 18:00-22:00 / 定休日: 月
- M. なか又**
群馬県前橋市千代田町2-7-21 / 027-896-9359 / 11:00-20:00 / 定休日: 月 (不定休)
- N. 前橋カツカミ**
群馬県前橋市千代田町2-7-20 / 027-289-5673 / [日] 11:30-14:30 [夜] 18:00-20:00 (定時開始完全予約コース制) / 定休日: 月 (月曜が祝日の場合は営業、翌火曜日休み)
- O. 西洋亭 市**
群馬県前橋市千代田町2-12-12 / 027-235-6846 / 11:30-18:00 / 定休日: 日・月
- P. 喫茶マルカ**
群馬県前橋市千代田町4-1-18 / 090-8680-2881 / 11:00-21:00 / 定休日: 月



- Q. SHIROIYA HOTEL**
2020年開業予定。
- R. アーツ前橋**
群馬県前橋市千代田町5-1-16 / 027-230-1144 / 10:00-18:00 / 定休日: 水
- S. 太陽の鐘**
群馬県前橋市千代田町5-18
- T. 前橋文学館**
群馬県前橋市千代田町3-12-10 / 027-235-8011 / 9:00-17:00 / 定休日: 水
- 1. ラーメン二郎**
群馬県前橋市千代田町4-12-3 / [日] 11:00-14:30 [夜] 17:00-20:00 / 定休日: 月
- 2. 大野屋**
群馬県前橋市千代田町4-12-2 / 027-233-3058 / [日] 11:00-14:30 [夜] 18:00-22:00 / 定休日: 木
- 3. もみやま食堂**
群馬県前橋市千代田町4-1-15 / 027-226-5620 / 11:00-22:00 / 不定休
- 4. 13 COFFEE ROASTERS**
群馬県前橋市若宮町1-7-12 / 027-289-4260 / 10:30-19:00 / 定休日: 水
- U. 親方ホルモン**
群馬県前橋市千代田町4-1-13 / 027-212-2994 / [火・土・祝日] 11:00-24:00 [日] 11:00-13:00 [夜] 17:00-24:00 [金・土・祝・祝前日] [日] 16:00-24:00 / 定休日: 月
- V. 煙 千代田3号店**
群馬県前橋市千代田町4-3-1 / 027-234-1194 / [日] 11:00-24:00 [月・木] 11:00-13:00 [夜] 17:00-24:00 [金・土・祝・祝前日] [日] 11:00-13:00 [夜] 17:00-26:00 / 不定休
- W. グンマーネオ酒場 リパール。**
群馬県前橋市千代田町4-3-10 / 027-289-8777 / [月・木] 17:00-24:00 [金・土・祝前日] 17:00-27:00 / 定休日: 日 (日曜日が祝前日の場合は営業で、連休最終日が休み)
- X. 炭火焼ワイン Lom**
群馬県前橋市表町2-2-4 / 027-257-3902 / 17:00-24:00 / 定休日: 日・第3月曜日

前橋と「まちなか」をこよなく愛する前橋まちなかエージェンシーによる、まちなか散歩の初級編。

まちなかの芽吹きをぶら散歩。

ポルトランド仕込みの手打ちパスタが人気の「**GRASSA**」は中村竜治、どら焼きなどに独自の解釈を施した和菓子屋「**なか又**」は長坂常、銀座で人気の「**前橋カツカミ**」は高濱史子と、いずれも前橋ビジョンに共鳴し、共感した建築家が設計した建築物を、食とともに楽しめる空間揃いだ。続いて小さな川の流れる馬場川通りへ。前橋のソウルフード＝ソースかつ丼のお店「**西洋亭 市**」は、女性店主が自らDIYしたやさしい空間。店主がセレクトした本とともにサクサクのカツを楽しもう。数軒先には「**喫茶マルカ**」。コミュニティFMを退職後カフェを開いた女性店主は、前橋に初めて来た人に様々な地元人を繋いでくれる玄関口的存在だ。川沿いを進むと右手に巨大な丘が見えてくる。藤本壮介が設計する「**SHIROIYA HOTEL**」がまもなくお目見えする場所だ。ホテルを進むと西武デパートだったビルをリノベーションしてできた市立美術館「**アーツ前橋**」が登場。街角に美術館がある立地は前橋のアートへの距離感を感じさせる。歓楽街を抜け、今一度広瀬川へ向かうと、原生林のような茂みが表れる。岡本太郎の幻の作品「**太陽の鐘**」が静かにその威容を誇っている。この鐘は前橋市のビジョン“めぶく。”の象徴として2018年3月に設置されたという。24mという長さの植木には、一人では撞けない＝街づくりのシンボルとして仲間と力を合わせて鐘を鳴らせるようにとの思いが込められている。太陽の鐘から広瀬川沿いを上ると、朔太郎ファンの集まる「**前橋文学館**」や、近くのオリオン通り商店街には連日長蛇の列の「**ラーメン二郎**」、その隣には親子で営む低温調理で揚げたトンカツ屋「**大野屋**」が続々とオープンした。お米屋さんが始めた小さな食堂「**もみやま食堂**」、こだわりのコーヒーロースター「**13 COFFEE ROASTERS**」、大衆ホルモン酒場「**親方ホルモン**」や焼き鳥自慢の「**煙 千代田3号店**」、唐揚げとレモンサワーの「**グンマーネオ酒場 リパール。**」など元気いっぱいな居酒屋たちが。駅前のケヤキ並木では赤城和牛の熟成肉とワインを楽しめる「**炭火焼ワインバル Lom**」も人気だ。ゆったりとした時間の流れの中に、強烈な個性のスタートアップたちが続々と入り乱れた良い意味でのカオス。この街の持つ独特なオーラをぜひ一度味わってみて欲しい。

前橋の2020年はこれです。 SHIROIYA HOTEL。

既に廃業していたものの300年(!)の歴史を誇っていた白井屋旅館*。 ※昭和50年代にホテルに改築後廃業

マンション建替の計画が持ちあがったが、志ある市民の想いが実を結んで方向転換。

建築家・藤本壮介の手がける大胆なアイデア溢れるリノベーションで、
新しいランドマーク、SHIROIYA HOTELとして街の記憶を繋いでいきます。

建築に加え、インテリア、アート、フードなど世界の才能が参加するユニークなプロジェクトに注目です。



正面外観

国道50号線に面するRC造4階建の建物は、従来の姿を継承しながら、ツタを這わせることで印象を変化させる。馬場川側の雰囲気との対比もポイント。

©Sou Fujimoto Architects



馬場川側の完成予想図

川沿いの道と街並みをつなぐように人工的な丘をつくり、その内部にはテナントなどが入る。

©Sou Fujimoto Architects

イギリスのデザイナー、ジャスパー・モリソンやイタリアの建築家ミケーレ・デルツキが客室をデザインしたり、アーティストのレアンドロ・エルリッヒの作品も内装インテリアに。ジャスパーもミケーレも前橋に足を運び、「自分が泊まりたい部屋をデザインした」とのこと。1階に入るテナントも、地元で何かやりたいという若い世代からセレクト。その中には7年前に始まった群馬イノベーションスクールで学んだ若者も。街づくり、ホテル、スクール...

すべてが「めぶく。」前橋へと繋がっている。

建築家・藤本壮介氏コメント

前橋は街全体がヒューマンスケールに基づいていて、歩いて巡れるエリアに豊かさが凝縮しています。ホテルは緑溢れる丘のような場所、1階は街のリビングルームにしたいと思っています。ホテルはいったん完成すると、いろんな人がそれぞれに利用する場所。なんでも受け入れて、そこから生まれていく物事を楽しみ、それでホテルが

さらに生き生きしてくると思います。

前橋に元々ある言葉にならない居心地やスケール感の良さは数値化できない街の最大の魅力。それをホテルによって可視化できると考えています。

デザイン誌「AXIS」(2019年10月号)特集「ホテル、その新しい潮流」より一部抜粋して編集・転載。田中仁氏と藤本壮介氏による対談の全文はQRコードからアクセスして頂くとお読みいただけます。



GRASSA オーナーシェフ 澤井 雷作さん

得意分野で街に刺激を与え続ける。

都内有名イタリアンに勤めていた澤井雷作さんが前橋に店を構えたのは、前橋のまちづくりに関わっていた高校時代の同級生から声を掛けられたことがきっかけ。総料理長まで務めていたとはいえ、料理オーナー/経営者になるのは初めての体験。最前線に立っていた顧客や、同級生以外友人・知人がいない前橋でのチャレンジは、家族を持つ身としても路頭に迷うことはできないというある種の悲壮感も抱えながらのスタートだった。最初はキッチンカーで中心街や企業、大学、そして何十ものイベントに出店。その後仮店舗での営業を経て、ようやく2018年8月にオープンへと辿り着く。毎日のように現れる壁に苦しい思いをしながらも、応援団のような人ずつ増える顧客たちに励まされるように

進んできた。澤井さんにとって商店街は、自らのようなオンリーワンを目指す店がひしめき合い、2店舗目、3店舗目を目指す第一歩になる始まりの場所とのこと。同世代や若い世代の刺激になればと思いながらも、派手なことはできない性分もあり、背中を見せる意味も込め、得意の食の分野で日替わりで開発するパスタメニューを中心に地道にブラッシュアップを重ねる日々。「早く新しいパスタが食べたい」「週に一度はGRASSAを食べないと気持ち悪い」と言ってくれる応援団たちと共に、料理を使って街を動かしていく。

日本初、ポルトランド発のハンドクラフトパスタが食べられるお店。毎日開発する日替わりパスタも人気だが、誰もがいつも頼んでしまうメニューは「ポークラゲール・リガトーニ」。



まちなかの風景を変えた 最初の2軒の店。

中央通り商店街を少し歩いてみるとレンガ造りの店が並び立つエリアが出迎えてくれる。前橋ビジョン「めぶく。」に共感し、動き始めた市民たちの小さな小さな物語。

なか又 店長 榊原 慎也さん

新しいことにチャレンジする行為こそが重要。

店長の榊原慎也さんはデザインコンサルティングファームのサラリーマンでもある。社長が会議の席で「前橋で和菓子屋をやりたい。挑戦したい者はいるか」と宣言したところから全てが始まった。その宣言を聞いた榊原さんは、当時名古屋支社のデザイナーとして仕事をしていて、お客さん側の目線を持ちながらデザイナーに依頼する立場になってみたいという衝動に駆られ、前橋で発足する新規事業に自然と手を挙げてしまったとのこと。そこから朝5時起床で6時から和菓子屋さんで修行を積む日々。自ら餃子を炊けるようになり、開店準備を進めた。日々直接的にBtoCを感じながら働いていて気付いた想いは、失敗すること、そしてその失敗を糧に挑戦することの大切さ。壁にぶつかったら軌道修正す

ればいいのであって、はなから行動を起こさないのは生産的ではない、という感覚だった。自分たちのような新しい店舗やチャレンジだけが正しいのではなく、今までずっとこの街で生きてきた人たちと、これから挑戦する人たちの共存こそが理想と思うようになったのだ。お店の新旧が魅力に繋がるのではなく、新しい試みをチャレンジしようとする行為こそが重要で、一人ずつが自分なりの芽吹きをお店に与えていくことが魅力的な街＝前橋/まちなかに繋がっていく。そんな想いを込めて今日も新しい挑戦の日々を過ごしている。

「前橋に新しい名物を」そんな想いを込めて古き良き和菓子に新しい感覚を加えるお店。看板商品のわぬき(どら焼き)は一枚一枚手焼き。季節の旬を盛り込んだスーパーシリーズはボリューム満点。



前橋モデルを加速する 新たなエンジン MDC (Maebashi Design Commission)

“まちなか”から街づくりを進める
機運が盛り上がっています。
それぞれのプロジェクトを見渡し、
背中を押していく。
街づくりのエンジンとして
新たに立ち上がる組織がMDCです。

MDCの目指す街づくり

大きな時代の変化、 前橋ならではの可能性、 暮らす人が幸せになる街を

世界を見れば人口爆発、環境限界と気候変動、
そして社会を激変させるデジタル化。
国内に目を向けると人口減少と高齢化が。
いずれにしろ、都市は変化を求めています。
遠くの問題ではありません。前橋でその答えを見つけるのです。
世界最大の東京都市圏の一角を占め、水と緑、広い空、
災害の少ない穏やかさと生糸の時代に培った豊かさ。
恵まれた資源を活かし、ルールに囚われずに
前橋ならではの持続可能な都市の未来を描き
みなさんとの街づくりを進めていきます。

MDCがやりたい施策の例

対話からはじまり、 実践を重ねて 次世代につなぐ

1. 市民や企業と街づくりについて対話を重ねる
2. ストリートを緑の空間にして人が集まる場所に
3. 空き家をゲストハウスに、まちなかにお店を
4. 広瀬川の景観を活かしたお店や滞在場所を
5. まちなかをデジタル産業のサテライトに
6. 街づくりを記録して発信するメディアを
7. 街づくりファンドで地元のプロジェクトを応援

MDC設立に向けて



MDC代表理事
GNホールディングス会長
天野 洋一

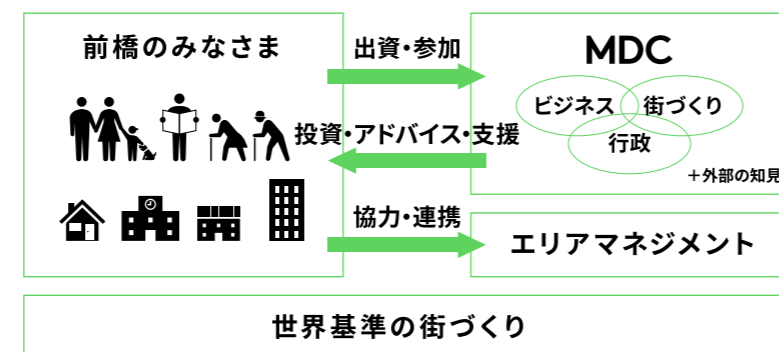
前橋で生まれ、前橋で育ち、前橋で今も
暮らす私は前橋衰退の歴史を見つけてき
ました。今まで様々な取り組みがありまし
たが、残念ながら良い芽が育ちませんでした。
今回、前橋で作られたビジョン「めぶく。」
「良いものが育つまち」を実現させるための
「デザイン都市」「前橋アーバンデザイン」

と「Green&Relax」という構想が、人口
減少が急速に進行する中で、前橋のラスト
チャンスと感じています。このラストチャ
ンスを必ずものにするための民間主体の
まちづくりのプラットフォーム「前橋デザ
インコミッション」に皆さまの知恵と力を
貸してください。

MDCはこんな組織です

求められる専門性、 明確なビジョン、 意志のある街づくり

事業のマネジメント、街の開発と運営、ブランドマネジメントなどの知
見を持つチームが行政や大学との良好な関係のもとで、
まちなかの活性化に取り組んでいきます。



世界に学ぶ街づくり

地域資源を活かした にぎわいといやし 訪れる人の絶えない街へ

[ポートランド]
職住一致、自然を活かした街づくりで知られる全米で一番住みやすい街。
多様な人材が集まるクリエイティブシティ。

[サンセバスチャン]
人口わずか19万人の世界都市。街の顔として戦略的に育てた“ピンチョス”で
世界から訪れる人の絶えないグルメの都。

[ブルックリン]
世界都市、ニューヨークの中におけるネイバーフッドエリアとして多様性を実現。
クリエイティブなライフスタイルで人気。

前橋モデルを支える 地域に根付いた力。

MDC以前から街づくりに取り組んできた方々と
力を合わせれば、“まちなか”から
もっとわくわくする前橋が育ちます。

太陽の会

その太陽は前橋を照らし続ける



太陽の会は、前橋ビジョン「めぶく。」に
共感した企業家有志により結成された、
日本でも稀有な集合体だ。共通する思い
は「自分たちの街は自分たちでつくる」と
いう精神。参画企業は毎年純利益の1%
(最低金額100万円)を前橋市のまちづく
りのための寄付金として拠出している。そ
こまでしても地域あってこそ自分たちのビ
ジネス、生まれ育った街をより良くしたい、
そんな風に考える経営者たちにより形成
されているからこそできる活動といえる。
第一弾プロジェクトである岡本太郎作
「太陽の鐘」の広瀬川への誘致&設置に
続き、現在は馬場川沿いの復興計画の
準備が着々と進められている。次世代の
芽を育てるための太陽となる、という会の名
前の由来からもわかるように、街も、人も、
常に後世を意識した活動を続けていくと

のこと。行政に頼り切らない市民たちによる、
市民のための芽吹きの流れがここにも
一つ。今は小さな一歩でも、少しずつ気
付き始める市民が生まれることを願いな
がら、太陽の会はその歩みの一歩を踏み
出している。

<https://www.taiyonokai-maebashi.com>



平成31年2月、太陽の鐘の復元修復移設に対して
多大なる貢献をしたとして平成天皇より紺綬褒章が
贈られた。

前橋まちなかエージェンシー

“まちなか”に灯るデザインのあかり

前橋まちなかエージェンシーは、「LO-
CALIFE DE+SIGN」=地方暮らしの概
念を再設計する、をビジョンに掲げ、デザ
インの力で前橋の“まちなか”から日本の
地方をもっと面白くするための活動を行
う集団。前橋ビジョンの提案から実施ま
でのプロジェクトを支えるために建築家、デ
ザイナー、プロデューサーなど多彩なバ
ックボーンをもつクリエイターが集まり
2016年6月に結成された。業務の対象エ
リアを市の「核」としての記憶を持つ前橋
中心街“まちなか”に設定することで、商店
街をはじめエリアとの交流を深めながら、
山間部や農村部でのいわゆる地域おこし

ではなく、市街地からの変革にトライし続
けている。代表的事例は、前述の前橋ビ
ジョン「めぶく。」策定のサポート、商店街
に新しい風を吹かせた飲食店3店舗開発
プロジェクト「Maebashi Design Project」
のプロデュース、ライフシアビル「comm」
の運営や、まちなかのクリエイティブ人材育
成のための「Maebashi Design School」
の実施、前橋めぶくフェスの企画と事務局
運営など多岐にわたる。最近では東京から
のクリエイターも迎え入れはじめ、その
勢いは加速している。

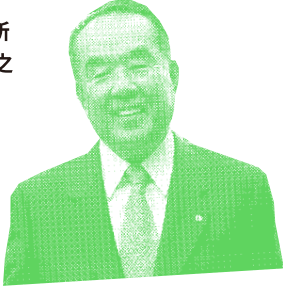
<https://www.machinaka.agency>



住んでよし、訪れてよしの前橋。

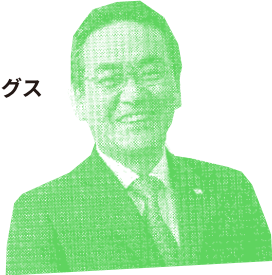
前橋には歴史や文化、自然、そして何よりも「人に優しい・街のために常に考える市民性」があり、これからの前橋には無限の可能性がある都市だと信じております。

前橋商工会議所
会頭 曾我 孝之



私にとっての前橋駅前は親子連れで楽しめる活気に満ちた場所。当時の賑わいをコシダカスタイルで再生します。

株式会社コシダカホールディングス
代表取締役社長 腰高 博



その土地の人、自然、文化、食に触れると、誰もがその虜になる「まち」がここ群馬にあります。それが魅力度ランキング45位でも群馬県人が余裕でいられる理由なのです。

東京ガス群馬支社長 小屋 かをり



あらゆる価値基準がひっくり返っていくこれからの時代。何にもないと思われてる前橋をひっくり返してみると？

株式会社HAGI STUDIO
代表取締役 宮崎 晃吉



群馬は、近代工業発祥の地。

現在、前橋はICTによる街づくりで日本の先端を走っています。若い力で、前橋からイノベーションを興して行きましょう。

元総務事務次官 桜井 俊



浜辺の潮が引くように人がいなくなった前橋のまちなかも少しずつめぶきはじめ、潮が満ち始めています。

空店舗も減少し、多くの若者たちがまちなかの価値を再評価してくれていることを嬉しく思います。

前橋中央通り商店街振興組合
理事長 大橋 慶人



教えてください、
あなたが考える
前橋のこれから。

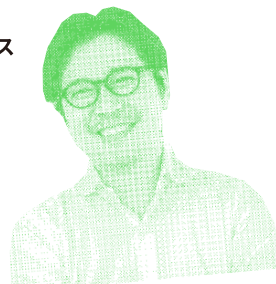
どこでもないここだから暮らしたい。前橋はそう思わせてくれるまちです。ここが人を育むまちだからでしょうか。

共愛学園前橋国際大学
学長 大森 昭生



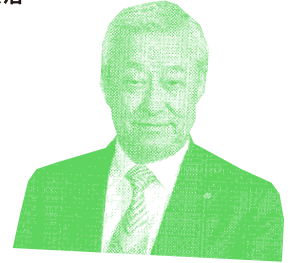
デジタル社会移行期の現代社会において前橋は様々な可能性に満ち溢れています。ビジョンを持つ前橋は先進的な地域として新しい価値を生み出すでしょう。

株式会社ジンスホールディングス
代表取締役CEO 田中 仁



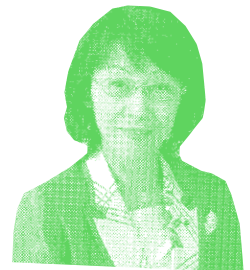
Green&Relax構想を進めることで、ここにいればイノベティブなアイデアが浮かぶようなまちなかを創造します！

前橋商工会議所 市街地活性化専門委員会
委員長 吉岡 慧治



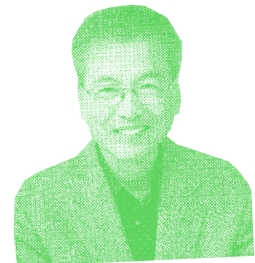
市民の芽吹きに呼応し、子どもたちが社会のために動き出しました。子どもたちをよく見て、信じて、任せて、支えることで「いい子どもが育つまち」として、前橋は生き生きと輝くでしょう。

前橋市教育委員会
教育長 塩崎 政江



前橋のテーマは、「町おこしから町ねかしへ」だ。どこでもやってるアートや映画や演劇のお祭りは、人が来るだけ。もうイベントは卒業して、新たな安らかな寝室としての町を作る。其れが前橋。

前橋文学館館長・多摩美術大学名誉教授
萩原 朔美



日本一の関東平野は空が広い。しばらく元気なかったけど、災害少ないし古墳時代から製糸業の時代までずっと豊か。東京も近いし、きっとこれからのワークライフにはとってもいい街です、前橋。

株式会社 電通
ディレクター 小川 滋

